

「保育内容と方法」授業取り組みの検討と課題 - 「教材研究」と「保育者の質の向上」の視点から -

“Childcare Contents and Methods” Examination and Problems of Class Effort

- From the perspective of “learning materials research” and “improving the quality of childcare workers” -

小田 良枝 (Yoshie Oda)

(名古屋芸術大学 教育学部 准教授)

1. はじめに

筆者は大学教員として保育者養成に携わり 4 年目を終えようとしている。

「保育内容と方法」は教員になり毎年授業を行った科目である。2019 年度は、選択科目であり集中講義として前期に行った。2020 年度からは、必須科目である。

この科目は、保育士資格、幼稚園教諭免許に関わる科目であり、カリキュラムは両方に対応できる内容に配慮が必要である。保育士資格に関しては、2018 年 6 月 24 日に厚生労働省から示された「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容において」¹⁾を基にシラバスを作成し授業を行っている。保育士養成課程を構成する各教科目の系列には、①保育の本質・目的に関する科目 ②保育の対象の理解に関する科目 ③保育の内容・方法に関する科目 ④保育実習 ⑤総合演習の 5 つがあり、本学の「保育内容と方法」の授業は、系列として③保育の内容・方法に関する科目である。

幼稚園免許に関しては、文部科学省によると道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目として「ロ 幼児理解の理論及び方法」²⁾が示されている。

また、「幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について」³⁾には「幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程の共通な科目として開設する場合には、そのシラバスに、5 領域に関する専門的な理解とともに、『保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容』が

求めている 5 領域の内容を具体的な実践につなげる方法を含む必要がある。」³⁾とある。「保育内容と方法」は演習科目であり、保育者養成の課程の中で筆者の保育現場経験を取り入れながら、保育者として意識や意欲が高まるカリキュラムを作成し授業を行っている。

2019 年度は選択科目であったため、前期に集中講義で行った。必修科目になった 2020 年度は、

新型コロナウイルス (convid-19) の猛威によりオンライン授業 (11 回) と対面授業 (4 回) の混合授業であった。2021 年度、2022 年度は全て対面授業で行った。

2021～2022 年度の「教材研究」の授業実践の取り組みを筆者自身が「保育者の質の向上」の視点から検討し、報告するとともに、今後の授業に向けて課題を明らかにしていく。

II 方法

1. 2021～2022 年の「教材研究」を取り入れた「保育内容と方法」の授業を①授業展開方法 ②筆者が作成した教材見本から検討する。

①授業展開方法

- ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験
- イ 教材作品の見本を基にした子どもの発達に即した遊び理解と作成方法の理解
- ウ 素材を使用した個別作品の製作
- エ 作品の発表方法

②筆者が作成した教材見本の写真

2. ①授業展開方法 ②筆者が作成した教材見本から「保育者の質の向上」の視点から検討し、今後の授業に向けて課題を明らかにする。

Ⅲ 結果

1. 「教材研究」の考え方

「教材研究」とは、教材の日ごらの使用方法を理解した上で、子どもにとって身近な環境を遊びに取り入れる工夫や考える楽しさ、それらを体験として理解することが出来るような教材を使った内容をねらいとして考える。子どもの発達に合った遊びに関わる内容とする。

授業で使用した教材は、「洗濯ばさみ」「ラミネートフィルム」「画用紙」「紙コップ」「新聞紙」「タオル」「毛糸」の7種類である。これらの教材は家庭にも身近にあり、幼児教育施設で教材として使用することも多い。

一般的な授業の中で「教材」は、テキストや配布資料を示すが、幼児教育の場合 保育場面の「生活と遊び」の環境構成や「製作（保育の場面では制作よりも製作と記載する場合がある。筆者が保育士として勤務していた際、指導計画においても製作と記載していた為、今回も製作と記載する）」の際に使用する洗濯ばさみ、紙コップなどの素材を示す。

2. 2021～2022年度に製作に使用した教材

製作に使用した教材は、以下のとおりである

【表1】。教材の選択については、①筆者の経験から幼児教育施設において頻繁に使用した教材であり、②安価で大量に用意できる教材であること。③生活環境に身近にある教材とした。

【表1】製作に使用した教材

| | 2021年度 | 2022年度 |
|-------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 「洗濯ばさみ」 | ・洗濯ばさみを使用した玩具 | ・洗濯ばさみを使用した玩具 |
| 「ラミネートフィルム」 | ・洗濯ばさみを使用した玩具の台紙 ・実習用下敷き | ・洗濯ばさみを使用した玩具の台紙 ・実習用下敷き |
| 「画用紙」 | ・玩具製作の部品 | ・玩具製作の部品 ・自分の名前の「判じ絵」 |
| 「紙コップ」 | ・飛び出すかぶ ・玩具 | ・飛び出すかぶ |
| 「新聞紙」 | ・七夕の天の川 ・グループ活動 | ・兜（折り紙） ・七夕の天の川 |
| 「タオル」 | ・文様の雑巾 | ・文様の雑巾 |
| 「毛糸」 | ・あやとり | |

3. 教材ごとに①授業展開方法 ②授業見本を示す。

「洗濯ばさみ」2021年度、2022年度

①授業展開方法

ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験

- ・配布資料による「洗濯ばさみ」の歴史理解、世界の「洗濯ばさみ」の形状を理解する。その後、実際に「洗濯ばさみ」を玩具として見立てて遊ぶ。実際に触れて、子どもの遊びの中で育まれる力（指先の力、色の認識等）を確認する。

イ 子どもの発達にあった遊びの教材作品の見本を基にした作成方法の理解

- ・手作り玩具として、顔の台紙に「洗濯ばさみ」を挟み髪の毛に見立てる。顔、ダンゴムシ、目玉、服の台紙の見本を見せた。
- ・配布資料には、「洗濯ばさみ」を取り付けた場合の顔の見本も示した【図1】。

- ・筆者は医療保育専門士であり、医療現場で、子どもたちと関わることも想定した見本を製作した。学生にその意味を伝え、医療保育に対する認識の機会とした。実際に、小児がんなどの子どもたちは、治療の影響で髪の毛が全て抜け落ちてしまうことがある。玩具は、遊びの他に子どもの病気理解や治療内容の理解を育むツールとして用いることもある。



【図1】「洗濯ばさみ」 授業スライド

ウ 素材を使用した個別作品の製作

- ・「洗濯ばさみ」をつなげて見立て遊びをする。筆者見本は、服に付けて、ネクタイ、ジュイ・オングの歌の衣装の真似、ミニカー用トンネル等。
- ・課題ノートに設計図を書いた後「洗濯ばさみ」を挟んで遊ぶ、玩具を作成する。「ラミネートフィルム」を使用し、作成した「洗濯ばさみ」の玩具の台紙をラミネートする。台紙をラミネートすることで、丈夫になり消毒もでき病院などで利用できるようになる。また、実習時等に実習記録を記載する際に活用できる罫線の入った自分の名前と大学のマーク入りの下敷きを作成した【図2】。



【図2】実習用下敷き (左：表、右：裏)

エ 作品の発表方法

2021年度：グループ内発表及びGoogle クラウド上に写真提出

2022年度：グループ内発表及び作品を机の上に置いて回覧、協同遊びの作品をGoogle クラウド上に写真提出

「ラミネートフィルム」2021年度、2022年度

① 授業展開方法

- ・「ラミネートフィルム」を使用し、作成した「洗濯ばさみ」の玩具の台紙をラミネートした。また、実習時に活用できる下敷きを作成した。
- ・ラミネートシートを無駄なく使用方法やラミネーターの使用方法も学んだ。その後、実際に学生自身が自分でラミネーターを使用し、作品を完成させる経験をした。

「画用紙」2021年度、2022年度

① 授業展開方法

- ・2021年度は、「洗濯ばさみ」の玩具作成と紙コップのカブの葉に使用した。
- ・2022年度は、2021年度の作品作成の他に「判じ絵」の台紙として使用した。「判じ絵」は、江戸時代に流行した絵を使ったなぞなぞ遊びであり、自分の名前を判じた。

ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験

- ・画用紙の表裏の確認をし、作品を作成する際に表裏を意識することを促した。

イ 教材作品の見本を基にした子どもの発達に即した遊び理解と作成方法の理解

- ・「判じ絵」については、子どもたちへの自己紹介や言葉遊び、名札を作成する際のマークに使用できることを伝えた。その上で学生自身の名前の「判じ絵」の作成をした。「判じ

絵」のルールを資料とスライドで学んだ【図3】。見本は、江戸時代の浮世絵師 喜多川歌麿の美人画等を用いて説明した。



【図3】「判じ絵の決まりごと」授業スライド

ウ 素材を使用した個別作品の製作

- ・自分の名前を「判じ絵」で示す課題を出した。
- ・2021年度、2022年度ともに、子ども向けと友達向け2種類の「判じ絵」を課題で作成した。
- ・2022年度は、課題の「判じ絵」を、画用紙に作品として製作した。鉛筆で下書きをした後、色鉛筆、アクリル絵の具などで着色した。

エ 作品の発表方法

- ・2021年度は、課題ノートに記載し提出した。
- ・2022年度は、Art&Design Center West に展示した。

「紙コップ」2021年度、2022年度

①授業展開方法

ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験

- ・「紙コップ」と示した場合も、自他のイメージの違いだけでなく、実際に大きさ、色など異なることを理解した【図5】。
- ・「紙コップ」を使用し、日ごろの活用方法と教材として遊ぶ遊び方、具体的には楽器や積み木としての活用方法を実践した。

イ 教材作品の見本を基にした子どもの発達に即した遊び理解と作成方法の理解

- ・資料では、2歳児の発達に合わせた取り組みとして、絵本、食育、製作から子どもの発達を理解し、その上で製作に取り組んだ【図4】。
- ・5歳児対象の指導案を基に、一斉保育形式で「飛び出すかぶ」の玩具を製作した【図6】。

ウ 素材を使用した個別作品の製作

- ・2021年度は、自分で考え、調べた「紙コップ」の玩具を製作した。
- ・2022年度は、個別作品は製作しなかった。

エ 作品の発表方法

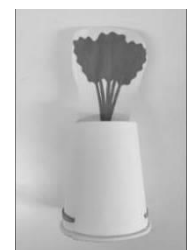
- ・2021年度は、「飛び出すかぶ」が完成した後、席が近くの数人で完成作品を見せ合った。個人製作の作品は、Google classroom上に課題提出とした。
- ・2022年度は、「飛び出すかぶ」が完成した際に、皆で一緒に一斉に飛ばして遊んだ。どのように工夫したら、高く飛ぶのかなど飛ばし方や製作面での工夫も考え周りの席の学生同士遊ぶ経験を取り入れた。



【図4】「2歳児の取り組みの例」授業スライド



【図5】紙コップ



【図6】飛び出すかぶ

「新聞紙」2021年度、2022年度

①授業展開方法

- ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験
- ・英字新聞を使用することで保育にどのような影響があるのか考える機会とした。
 - ・文字や数字への興味を子どもたちが持てる教材として環境を工夫する際の考え方を伝えた。教材として新聞紙を破り、紙の縦横で破れ方の違い等を体験した。
- イ 教材作品の見本を基にした子どもの発達に即した遊び理解と作成方法の理解
- ・2021年度は、七夕飾りに使用する「天の川」の切り紙の実践をした。その後、新聞紙遊びの実践をグループ活動として行い、グループ発表を行った。子どもの年齢、ねらいを明確にし、新聞紙を使用した遊びを考え、教材を作成した。
 - ・2022年度は、新聞紙で折り紙（長方形を正方形にする）を作成し、兜を折って自分で被った【図7】。折り紙の余りの新聞紙で七夕飾りに使用する「天の川」の切り紙の実践をした。切り方、紙の折り方で形や長さがどのように変化するのか、教え方等考えながら、取り組んだ【図8】。
- ウ 素材を使用した個別作品の製作
- ・個別作品は製作しなかった。
- エ 作品の発表方法
- ・2021、2022年度、共に授業中の写真を撮り、授業終了後、動画編集しクラスルーム上に載せた。



【図7】兜

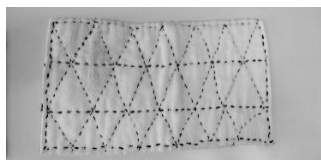


【図8】天の川

「タオル」2021年度、2022年度

①授業展開方法

- ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験
- ・「タオル」の素材や厚み、折り方により「雑巾」の形状が異なることを理解した。
 - ・日本の様々な文様を知り、文様の意味を理解した上で、文様を図案化した雑巾の作成をする意味を理解した【図9】。
- イ 教材作品の見本を基にした子どもの発達に即した遊び理解と作成方法の理解
- ・雑巾作成は学生自身が実習先で衛生管理を実践することと共に自作の雑巾を持ち、実習に出掛けること、保育者としての姿勢に意味があることを学んだ。
 - ・文様を学んだ理由として、文様に意味や願いが込められていることを知識として学修しなかったからである。雑巾の作成方法は、文様を刺し子のように縫うため表裏の縫い方にも工夫が必要である。自分で考える、わからないことは調べる、周りに尋ねるなど友達と関わることや学ぶ意欲につなげるねらいがあった。
- ウ 素材を使用した個別作品の製作
- ・タオルを使用し、課題として取り組んだ。
 - ・自分の好きな、子どもへの願いを込めた文様を雑巾の柄とすることを説明した。雑巾の作成手順を資料や見本から理解した。
- エ 作品の発表方法
- ・2021年度は、授業の課題として取り組んだ。
 - ・2022年度は、Art&Design Center Westに展示した。



【図9】文様「鱗」雑巾見本

「毛糸」2021年度

①授業展開方法

ア 資料による教材の素材理解及び素材に触れる体験

- ・「毛糸」を使ってあやとりのひもの結び方を学び、自分（大人）のあやとりの紐を作成した【図10】。

イ 教材作品の見本を基にした子どもの発達に即した遊び理解と作成方法の理解

- ・資料のあやとりの手品や2人以上で行うあやとりの実践に取り組んだ。
- ・子どものあやとりの長さを実際に見て、自分のあやとりの長さとの違いを理解した。

ウ 素材を使用した個別作品の製作

- ・資料を見ながら取り組んだ。
- ・毛糸は各自用意したため、学生により毛糸の色、太さ、より等が異なり、同じ材料でも異なることを理解した。

エ 作品の発表方法

授業内に、全員一斉に覚えたあやとりに取り組んだ。



【図10】あやとり（上:大人用 下:子ども用）

IV 考察

「保育者の質の向上」は、「保育内容と方法」の授業をきっかけに学生（保育者）自身が、子どもの発達を促す豊かな環境はどのようにしたら良いか学び工夫し続ける取り組みの基礎と考える。その上で、授業展開方法を 1. 教育的な視点 2. 問題の焦点 3. 改善と関わり方 の3点から考察していく。

1. 教育的な視点

「教材研究」を授業の中で取り入れる際は、

- ①最初に授業のねらいや授業内容を伝える。
- ②知識として教材の日常の使用方法を理解し、教材として活用する際の利点、子どもの発達、遊びの視点からの教材理解を促す。
- ③実際に、子どもと遊ぶ使い方を学生自身が子どもになり取り組む。その後、保育者としてのねらいを再確認する。
- ④最後に、自分で考え、教材を使った製作物を作成という手順で進めている。

授業展開方法は、「子どもの姿」を理解し、実際に学生自身が子どもとして「教材」に触れ体験することで、基礎知識を経験につなげ、最後は応用するという方法である。これら一連の流れから、学生が「教材」の意識を深め、「子どもの姿」にあった「教材」見本を考えたり、調べたりしながら作成することで保育者としての視点で作り方や手順を理解する。その上で、子どもの年齢にあった製作手順を考えながら自分で教材を作り上げる経験が出来る。

この一連の方法は、日案を作成する際に繋がる。

また、「教材研究」については、碓井⁴⁾によると学生の53%は教材研究がわからないと答えており、特に「子どもの姿」、「教材研究の方法」、「子どもの年齢に応じた教材がわからない」という回答がある。

授業の中で、身近な生活用品の教材を触り、「子どもの姿」や「子どもの年齢に応じた教材」を理解し、いくつかの製作物を一定時間内に友達と話をしながら製作することで「教材研究」についての基礎的な理解が体験できると考えられる。

2021年度から2022年度では、製作した「判じ絵」と文様を刺し子した「雑巾」を Art & Design Center West で展示した。搬入、展示、展示会での受付、搬出を学生自身が経験したことは、作品の展示方法や実際の運営の経験のみならず作品が展示される際の子どもの気持ちを知る経験にも繋がったと考えられる。

2. 問題の焦点

問題は「保育者の質の向上」と共に「保育内容と方法」の授業が厚生労働省の資料「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」¹⁾に、即しているかということが重要である。

「保育内容の理解と方法」の目標として、1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境などと保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。2. 保育における教材などの活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。」¹⁾とある。

目標の到達のための方法は、シラバスを基に授業を進めながらも毎回授業の中で、学生の認知状況を「教材研究」の製作や作品などから確認し、教員自身が主体的に考え、工夫し続けていくことが重要ではないかと認識した。

3. 改善と関わり方

学生の保育教材の認知を促すために複数の「教材」を活用し「教材研究」を取り入れた。

授業の理解度は、授業中の様子と共に課題ノート、個人作品や授業内の製作過程、写真、動画から振り返った。課題や作品から、伝えたい内容が伝わっていないと認識した内容については、授業後に確認することになるが、そのような時は、必ず次の授業の最初に復習として確認するようにした。

また、「教材研究」とは異なる「教材」の活用として「洗濯ばさみ」の授業の際、安全管理の認識をするための方法として、トイレットペーパーの芯を用いた子どもの気道理解がある【図 11】。

3 歳の子どもの気道の口径とトイレットペーパーの芯の太さと殆ど同じであることから、学生の安全認知を促すために子どもの気道に見立てた筒に「洗濯ばさみ」を実際に通して子どもが飲み込めることを理解した。

「洗濯ばさみ」が微細運動を促す指先を使った遊

びとして取り入れる場合、対象とする子どもの年齢も社会性などの発達を振り返りながら、確認した。

この場合、授業は「洗濯ばさみ」の「教材研究」であり、同様に教材となりえるトイレットペーパーの芯で遊ぶなどの機会は取って設けなかった。目的が、安全管理の認知を高めるためだからである。

また、子どもの気道を見てその大きさを理解した後、窒息死亡事故の年齢別発生数や命が助かった場合の後遺症などについてもスライドや動画を基に学び、身近な「教材」を遊びに使うことの責任や安全な保育が「保育者の質」について具体的に示す取り組みとした。



【図 11】 気道チェッカー

遊びとしての「教材研究」は勿論、安全や衛生管理など理解するうえで「保育者の質の向上」として教材を使用することや身近にあるいろいろな素材を「教材研究」として多様な活用方法や考え方を理解し、繰り返し取り入れていくことが学生の「保育内容」の理解に繋がるのではないかと理解した。

今後は、学生自身が体験を通して「教材研究」の楽しさに気づき、「教材」との関わりや自分で考える、工夫する、自分の身の回りに目を向けるようになるよう授業改善していくことが重要である。

つまり、筆者自身が「教材研究」を行い学生が主体的に授業に取り組むように努めることが何よりも重要であると理解できた。

VI おわりに

今回、筆者自身が「保育内容と方法」の授業を振り返り、今後の授業に向けての課題を検討し、明らかにしていくことを目的とした。

4 年前に大学教員として赴任した際から現在に至るまで、学生に授業することの難しさを認識して

いる。理論を理解し、理論を実践で活かすとどのような保育内容につながるのか、また、筆者の現場での体験を「教材研究」を扱う授業から学生自身が子ども、保育者を体感することに繋り、客観的に保育を考えるきっかけや基礎になるのではないかと考えてきた。

今回、授業を振り返る中で、学生の評価ではなく、筆者自身が授業を客観的に見て、学生の理解や自分の教授内容を把握した上で、課題を認識し、改善に向けての行動を積み重ねることの重要性を改めて認識することができた。

最後に、大学教員として求められる資質について自分の役割を理解したい。大学教員の大学設置基準は、昭和三十一年の文部省令に「実務家教員」と記されている。「実務家教員」の役割については、関係規定において教員組織は「第七条 大学は、教育研究上の目的を達成するため、教員研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員をおくものとする。」⁴⁾とされている。文部省告示第百七十五号(平成十六年十二月十五日)(抄)によると元実務家を実務家教員として認める内容として、実務から離れてからの期間(5~10年以内)と実務経験の長さが考慮されるとある。大学設置などに係る提出書類の作成の手引き(平成18年度版)(抄)によると 4. 「教育上の能力に関する事項」の例として、エ 「4 実務家の経験を有する者についての特記事項」として大学から受け入れた実習生等に対する指導も項目にある。

また、文部科学省は高等教育の授業料軽減に関する考え方として、学生に対する要件と共に大学等に対しても要件を設けている。その内容は、「卒業に必要となる標準単位数(4年生大学の場合、124単位)の1割以上、実務経験のある教員による授業科目が配置されていること(全ての学部等が要件を満たすことが必要。)」⁵⁾としている。

つまり、実務経験のある教員は研究機関の中で、学生の授業料軽減の要件を満たすことになる。その上で教員自身の実務経験を活かし、理論と実践を結

びつけ学生の学ぶ意欲を育み教授することが求められていると考えられる。

本学のHPに記載されている実務経験のある教員などによる授業科目の一覧表 全学総合共通科目(kyouin&kamoku.pdf (nua.ac.jp)によると、教育学部 子ども学科(人間発達学部 子ども発達学科)において筆者は実務家教員として採用されていないことが認められた。2022年度(2019~2021年度は 全学総合共通科目「生活と福祉」を担当していた)は、全学総合共通科目は担当していない。

また、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者シラバス作成についてによると「各大学等におけるシラバスを作成する際の留意事項」¹⁾によると 担当者に求められることとして「各領域に関連する学問分野を専門とする者が担当することになるが、いずれの場合も、『幼児』や『幼児期の教育』、『幼稚園教育』について、よく理解していることは重要である。」¹⁾とある。筆者は、教員以前は保育者として30年の経験があり、保育所実習担当教員であった。

保育者として必要な保育を展開していく上で、指導方法や考え方の基礎を「教材作成」のみで終わるのではなく、「教材作成」後、学生自身が保育の展開を身に付けていくかということが課題である。

今後も現場での実務経験を活かし、しかし、現場経験に頼るだけではなく、芸術大学だからこそセンスの良い保育者養成を目指し、真摯に自分の授業を振り返り学生の「保育者の質の向上」の基礎に繋がる授業に真摯に取り組んでいきたい。

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省：別添1 保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について：保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理) [報告書] (mhlw.go.jp) (最終閲覧日 2023. 1. 31)
- 2) 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会:教育課程コアカリキュラム, 文部科学省, 平成 29 年 11 月 17 日, P24
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf (最終閲覧日 2023. 1. 24)
- 3) 保育教諭養成課程研究会 日本保育者養成教育学会：幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について：平成 30 年 5 月 18 日 20180520.pdf (youseikatei.com) (最終閲覧日 2023. 1. 31)
- 4) 碓井幸子, et al. 幼児教育を学ぶ学生の保育実践力を養う教材研究の方法と課題, 清泉女学院短期大学研究紀要, 2017, 35: 1-11
- 5) 文部科学省：実務家教員関係規定
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/attach/1416202.htm (最終閲覧日 2023. 1. 24)
- 6) 文部科学省：高等教育の負担軽減の具体的方策について、(平成 30 年 6 月 14 日「高等教育段階の負担軽減方策に関する専門家会議」報告)
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/06/19/1406226_02_1.pdf (最終閲覧日 2023. 1. 24)
- 7) 無藤隆 代表 保育教諭養成課程研究会 編：幼稚園教諭養成課程をどう構成するか ～モデルカリキュラムに基づく提案～, (株)萌文書房, 東京, 2017 年, 164 ページ
- 8) 文部科学省：法律上の科目区分を統合(総単位数は変更なし)【教諭】①教科に関する科目、②教職に関する科目、③教科及び教職に関する

科目

- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siry/_icsFiles/afieldfile/2017/07/20/1387656_04.pdf (最終閲覧日 2023. 1. 24)
- 9) 文部科学省 専門職大学院
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senmonshoku/index.htm (最終閲覧日 2023. 1. 24)
- 10) 秋田喜代美; 箕輪潤子; 高櫻綾子. 保育の質研究の展望と課題. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 2007, 47: 289-305.
- 11) 二宮祐; 小山治; 児島功和. 「実務家教員」の系譜: 政策と慣行. 関西大学高等教育研究, 2021, 12: 123-132.
- 12) 栗原泰子: 保育者養成における「指導法」の研究 -保育者にとって考える力とは-, 「保育学研究」1993 年, 株式会社フレーベル, 1992, 80-87